



代表取締役社長

梶川 勇次

## ◆◆ 経営環境

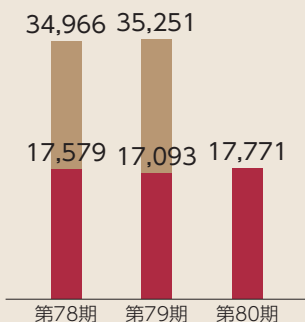
当中間連結会計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により、企業収益や雇用環境は大幅に悪化し、個人消費が減衰するなど厳しい状況となりました。政府や日銀による経済政策・金融政策の効果を背景に、徐々に景気回復の兆しがみられるものの、感染拡大の収束時期の見通しが立たず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品小売業界におきましては、コロナ禍における外出自粛の影響により、内食需要・巣ごもり消費が引き続き高まりをみせるなど、売上を押し上げる要因となった一方で、企業収益の悪化や消費マインドの低下により、消費者の節約志向は一段と強まるとともに、業種や業態の垣根を越えた企業間の争いはさらに激化しており、今後とも厳しい経営環境が継続していくものと思われれます。

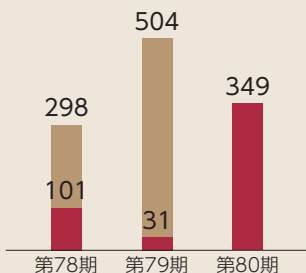
## ■ 連結決算ハイライト

■ 通期 ■ 中間期

営業収益 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



## ◆ 営業概況と業績

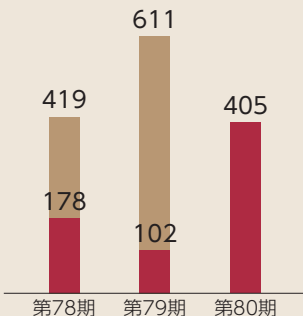
このような状況の中、当社グループは、お客様と従業員の安全・安心を確保することを最優先に、新型コロナウイルス感染拡大防止策に取り組むとともに、地域に密着したスーパーマーケットとしての存在感を高め、地域に欠かせないインフラとしてのポジション確立に向け、「岡崎食品加工センター」および「ドミデリカ惣菜センター」を活用した新鮮で価値のある地元商品の開発および安全・安心な商品の提供に努め、新規顧客の獲得に取り組んでまいりました。

また、セミセルフレジ導入店舗の拡大による店舗作業の効率化や、販売促進の見直しによる広告宣伝費の削減等を実施することにより、収益性の改善に努めてまいりました。

以上の結果、当中期連結会計期間の営業収益は177億71百万円(前年同期比4.0%増)、営業利益は3億49百万円(前年同期比11.1倍)、経常利益は4億5百万円(前年同期比296.9%増)となりました。なお、親会社株主に帰属する中間純利益は安城アンフォーレ店閉店による店舗閉鎖損失引当金繰入額の計上により1億76百万円(前年同期比169.8%増)となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

経常利益(単位:百万円)



親会社株主に帰属する  
中間(当期)純利益  
(単位:百万円)

